

長白山「天池」を目指した経営者たちの夏休み

中朝国境地帯を往くミニ訪中団（2015年7月8日～7月12日）

■ 中国の経済発展を実感

中国と北朝鮮の国境にそびえる長白山（朝鮮名・白頭山、標高2744メートル）山頂がカルデラ湖となっており「天池」と呼ばれます。古来その絶景は人をひきつけてやまない。一生に一度はここを訪れたかった私。念願を叶えるべく同友会（日中経済交流研究会）の仲間とともに天池を目指しました。メンバーは趙海鷹（シーホーク・インターナショナル）荻田晃久（荻田建築事務所）馬場順一郎（ナニワ製作所）吉谷忠久（新高製作所）坂元、そして趙さんの伯母さんが北京から参加しての日中混合パーティです。

今回の旅をコーディネートしてくれたのが趙海鷹さん。長白山の近く中国朝鮮族自治州・延吉市の出身で、滞日18年になります。彼女の帰郷に合わせて今回のツアーを企画。航空機・ホテルや旅行社などの一切を手配してくださいました。

ツアーの拠点となったのが延吉。朝鮮族自治州の州都であり、人口の約半分が朝鮮族。いたる所に中国語と朝鮮語（ハングル）の両方が併記されています。私はちょうど20年前に中国・吉林省（長春市）に留学しており、その時に延吉を一度訪問しています。当時はまだ改革開放が始まったばかりでした。だから今回訪れた延吉の発展ぶりには眼を見開かされました。街並みや人々の様子を見るだけで一目瞭然。日本にたとえると1950年代からいきなり2000年代に連れてこられたかのような感覚でした。

今回、中国の経済発展をひしひしと感じたのが「物価」です。空港の軽食コーナーでちょっと食べたうどんが800円、缶ビールが700円（いずれも日本円換算）。市内での買い物も以前ほど安くはない。ひところは1万円を両替して1000元近くありましたが、今回は500元ほど。なんと円が弱くなったことか。中身（クオリティ）を考えると、日本の方がハッキリ言って安い。これは、ちょっと小金を持った中国人観光客が日本で爆買いするのも当然だと実感します。

■ 絶景！ そして日中の友情！

さて、長白山は好天に恵まれた素晴らしい登山になりました。観光用の小型バスに乗り、一気に山上へ。山頂近くまで道路が整備されており、実際に歩いて登ったのは10分ほど。これは登山でなく、ほとんど観光でした。標高2500メートルを超える世界はやはり格別。その空気感、空の近さ、眼下に広がる雄大な景色。爽快きまりなし。そして、ついに見えた天池。透明度の高さ、切り立った崖とのコントラストの鮮やかさ、一生忘れない光景になりました。山上は韓国人観光客が非常に多い。朝鮮民族にとって



長白山（白頭山）は聖なる山。北朝鮮側から登ることは難しいので、この人気も納得でした。

そして今回の旅行では中朝国境の街・図們市、琿春市も訪問。私にとって豆満江越しに眺める北朝鮮も20年ぶりです。当時は金日成が死去したころでした。まさかあの体制がそのまま20年も維持されるとは。苛烈な人民支配に思いをいたし、一日も早い解放・民主化を願ってやみません。

私たちの延吉訪問を大歓迎してくれたのが趙さんの小中学校時代の旧友たちでした。なかでもかつては「悪童」だったらしい同級生氏がセメント会社を経営して大成功。いまや当地でかなりのシェアを握るらしい。初日の「モンゴル式羊焼き」、最終日の「延吉名物・犬鍋」と、豪勢な食事でもてなしてくれました。両国の庶民と庶民がこうして仲良く酒を酌み交わす席に政治や歴史問題が入り込む余地はありません。彼が私たち全員に持たせてくれたお土産を日本で開けてみてビックリ。豪華キムチ8点セット。中国人の友情の深さに感動した旅でした。

坂元鋼材株式会社 代表取締役 坂元 正三

